

売電で収益、太陽光研究加速



KIT（大阪市北区、佐賀達男社長、06・6347・1531）は、ローコスト太陽光発電の研究と売電の拠点となる大規模太陽光発電所（メガソーラー）を年内に設置する。同社は大阪大学発ベンチャー（VB）で、阪大産業科学研究所小林光研究室の技術の実用展開を進めている。メガソーラーで高効率化や低価格化技術の商用化を加速するとともに、特許収入を得るまでの収益源として売電を活用する。

大学発VBがメガソーラーを運営するのは珍しい。奈良県天理市で約1万平方メートルの土地を準備中で、今春にも着工する。14年夏か秋頃の完成を目指している。第1期工事と第2期工事を合わせ、出力900キロワットのシステムを売電用として導入する。1期分700キロワットは太陽光システム販売のア

ー・グループ（大阪府中央区）を通じて、中国のシンソーラー製モジュールを調達。事業費は1億数千円の見通し。技術のライセンス収入を核とする大学発VBは、特許などが活用され収益に結びつくまでの事業活動費の確保が難しく、同社も例外ではないという。このため売電で

収益を確保し、特許維持費用などで活用。一方で、太陽光発電のフィールド研究場所を自前で保有することで、技術成果を早期に実用化へつなげることが可能になる。研究ではモジュールや関連機器、製造機器、製造プロセスに必要な化学品など幅広いメーカーと共同で太陽光発電のローコスト化を研究する。小林研究室は、シリコンウエハーを共沸硝酸に漬け極薄の酸化膜を形成して変換効率を高める技術を保有。また、過酸化水素とフッ酸に浸し白金触媒で、微結晶シリコン層を形成する技術も確立している。

微結晶シリコン層は表面が粒子径が小さくシリコン界面に近づくほど大きい構造で、連続的に屈折率が変わるため反射が抑制される。両技術の複合で多結晶で約5%、単結晶で4〜5%の変換効率向上を見込む。また高価な真空装置を用いないため、ローコスト化と高性能化を両立する技術として期待されている。

4月9日の「ウインドウズXP」のサポート終了があと1カ月半後に迫った。東京商工会議所が開いた移行対策セミナー

（写真）には120人もない場合の応急対策を話した。日本電信電話ユーザー会クラウドワークススクエア担当の川内雅人氏は移行のためのチェック項目を挙げて移行の際の注意点を解説。NTTドコモの鈴木博道氏は新OSとして「ウインドウズ8」を活用した場合のタレットとの連携など、新しい働き方を提案した。

（写真）には120人もない場合の応急対策を話した。日本電信電話ユーザー会クラウドワークススクエア担当の川内雅人氏は移行のためのチェック項目を挙げて移行の際の注意点を解説。NTTドコモの鈴木博道氏は新OSとして「ウインドウズ8」を活用した場合のタレットとの連携など、新しい働き方を提案した。

（写真）には120人もない場合の応急対策を話した。日本電信電話ユーザー会クラウドワークススクエア担当の川内雅人氏は移行のためのチェック項目を挙げて移行の際の注意点を解説。NTTドコモの鈴木博道氏は新OSとして「ウインドウズ8」を活用した場合のタレットとの連携など、新しい働き方を提案した。

大学発VBがメガソーラー

阪大のKIT、自前設備

協栄産業

3

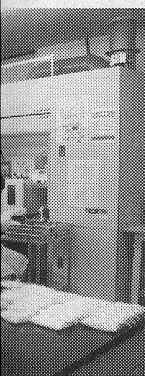
ペットボトルを卵パック

や繊維に再生する企業は、協栄産業以外にもある。飲料に直接触れるペットボトルに再生ペットボトルが採用されるためには、安全性

サントリーが興味

社長の古沢栄一らは再生

クリア



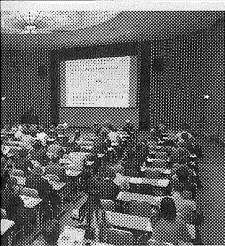
のためのテストをする時間がムダ。ようやく前向きな回答してきたのが、サントリー食品インターナショナルだった。

あえて汚染実験

2009年に共同研究に着手。すでにペットボトルの成分そのものに化学的の不純物は含まれていないことは実証していた。しかし、古沢

進む再生樹脂利用

10年11月にサントリー食品インターナショナルが「業界初」として再生材料由来のラベルを採用し、11



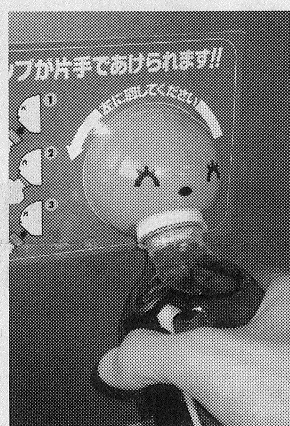
新しい働き方を提案した。

開栓補助器具

ファイル

いい話

バリアフリーの奨励賞に



お年寄りも簡単にペットボトルの開栓ができる

ペットボトルのキャップを片手でも簡単に開けられる。栃木商工会議所内のASIとちぎは、握力が低下したお年寄りや障害がある人を手助けする開栓補助器具「スマイルオープン」の製作・普及活動で2013年12月にバリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰の内閣府特命担当大臣奨励賞を受賞した。屋外用のアルミニウム合金

製と屋内用のプラスチック製の2タイプ。価格はアルミ製が4000円、プラ製が840円。プラ製はサカエ工業（栃木市、池添亮社長、0282・43・3501）が製造。12年春に発売し、表彰前までは累計販売1万4000

個だったが、池添社長は「表彰後だけで約5000個の注文が入った」と笑顔。開栓を誰かに頼むというストレスから解放されたユーザーの喜びの声に触れて「モノづくり企業として社会貢献の意義を確信した。もっと普及させたい」と使命感に燃えている。（宇都宮）

ASIとちぎ